音読指導は生徒の「できる！」への「架け橋」

中嶋塾＠東京 2023
第３クールＤ班
筑波大学附属中学校　高杉 達也

年末に開催された中嶋塾 12 月例会の冒頭の 20 分、スピーキングテストに対応するための指導法として、音読の指導法を中嶋先生にご教授いただきました。この学びから、これまでの自分の音読指導が「おままごと」だったことに気付かされ、正直なところショックを隠せませんでした。そしてこれまで私が教えてきた生徒に対して申し訳なさでいっぱいになりました。

中嶋先生の音読指導は、「わかる」を「できる」にする橋渡し役を担っているのだと思います。教師の発問や解説で理解した英語を、自分のものとして使えるようにするための「架け橋」なのだと。そしてその橋は、中嶋先生の２つの「徹底」によって頑強な橋になっていました。

１つめは **baby step の徹底**です。冒頭に紹介していただいた音読活動はなんと 12 種類。この種類の多さに驚愕しました。それらの活動を実体験してわかったのが、絶妙な難易度調整とその配列です。まさに baby step を上がっていくかのように、私たちは無理なく最後の final challenge に行きつくことができました。この練習を積み重ねれば、英語が得意でない生徒でも前向きに音読に取り組み、最後には「できた！」と実感することは間違いないです。この徹底した baby step は、川村光一先生の『ゴーインにマイウェイ３』の中嶋先生の節に書かれていた「誰もが音読できるようにしてやりたい」という熱い想いが根底にあるからこそのものであると確信しました。

２つめは**繰り返しの徹底**です。先生が送ってくださったスライドにもある「英文を高速処理する力」を生徒に身に付けさせるには、繰り返し練習して知識を自動化することが肝要です。しかし「繰り返し」は時として「飽き」を生み出します。英語が得意でない生徒からすると、それは耐え難い時間でしょう。この問題への解決法として、中嶋先生は活動のバリエーション、そしてワクワクさせる仕掛けを私たちに示してくださりました。まず Shadowing で音声面を強化し、次に backward build-up reading で読みの流暢性を向上し、その後チャンク読みで理解の深化を図っていく。このようなバリエーションの豊富さで生徒のワクワク感を維持することができます。また、それぞれの音読活動に明確な目的があるので、生徒も「納得感」をもって繰り返しの練習に取り組むこともできます。さらには upside down reading で上下が逆さまになっていたり、パックマンが出てきて文を食べ始めたりと「遊び心」も満載なので、飽きるどころか楽しくて仕方ありません。

このような「徹底」があるからこそ生徒は音読を楽しみ、挑戦しながら繰り返し、「わかった」を「できた」に昇華できるのだと体感しました。このような徹底がなければ「わかる授業」を「できる授業」にすることはできません。『「根っこ」と「教師年輪」』の資料でも中嶋先生は「教えることは徹底して教える。」とおっしゃっています。冬季休業明けからの授業で私も上記の２つを徹底し、「わかる」を「できる」に橋渡しする授業を実現していきます。